



『校則なくした中学校たったひとつの校長ルール』 西郷 孝彦 小学館

生田分館	請求記号：J/376/Sa18	資料ID：701768665
神田分館	請求記号：J/376/Sa18 [Knowledge Base展示中]	資料ID：701768624

経営学部准教授 福山 文子

「どうせ学校なんか変わらない・・・」と、思っていますか。

学校だけじゃない、社会もひょっとしたらみんなが楽しく過ごせるように変えていけるかも・・・、そう思わせてくれるかもしれない（保険かけました：笑）本です。

すごく読みやすい。あっという間に読めちゃいます。なぜか？先ずは、学校教育という、私たちの経験につながる内容だからだと思います。もう一つ理由をあげるなら、なんかおかしい・・・、でもしかたないのかも・・・とモヤモヤしていた想いを言語化し、その上「おかしくないよ。しかたなくないよ。ホラ！」と、想像を超えた実践で証明してくれているからだと思います。とにかく、痛快！です。

でも、この本は「痛快」だけで終わらせてはいけない気がします。「定期テストをやめた」「いつ登校してもかまわない」「チャイムもいらない」学校で笑顔を取り戻していく子ども達の姿から、私たちは何に気づき、何を变えていかなければならないのか・・・。そんなことも考えさせてくれる本です。西郷校長、ちょっとニヒルでなかなかのカタヤブリです。賛同できない方もいるかもしれませんが。それはそれでいいのだと思います。

私にとっては、既存のものを鋭く問いつつ「すべての子どもたちが3年間楽しく過ごせるにはどうしたらいいか」を考え続ける西郷校長の姿勢は魅力的でした。誰一人排除しない学校、誰一人排除しない社会のあり方を考えるヒントが詰まっています。